

新薬開発状況

(2018年4月現在)

前回の決算発表時(2018年1月31日)からの変更箇所を下線

がん領域 (1/2)

*共同研究により創出された化合物を含む。

開発コード 一般名	薬効/作用機序	対象疾患	開発段階/地域	剤形	自社*/導入	備考
MDV3100 エンザルタミド	アンドロゲン受容体阻害剤	去勢抵抗性前立腺がん(錠剤)	承認(2018年2月)/日本	経口	Pfizer	剤形追加
		非転移性去勢抵抗性前立腺がん	申請(2018年1月)/米国、欧州			効能追加
		非転移性生化学的再発前立腺がん	P-Ⅲ/米国、欧州、アジア			効能追加
		転移性ホルモン感受性前立腺がん	P-Ⅲ/米国、欧州、日本、アジア			効能追加
ASP3550 デガレリクス	GnRH受容体アンタゴニスト	前立腺がん(3か月製剤)	申請(2017年11月)/日本	注射	Ferring	剤形追加
AMG 103 ブリナツモマブ	抗CD19 BiTE抗体	急性リンパ性白血病	申請(2018年1月)/日本	注射	Amgen [アステラス・アム ジェンと共同開発]	
ASP2215 ギルテリチニブ	FLT3/AXL阻害剤	急性骨髄性白血病 (再発又は難治性)	申請(2018年3月)/米国、日本 P-Ⅲ/米国、欧州、日本、アジア	経口	自社	
		急性骨髄性白血病 (寛解導入化学療法後の維持療法)	P-Ⅲ/米国、欧州、日本、アジア			
		急性骨髄性白血病 (造血幹細胞移植後の維持療法)	P-Ⅲ/米国、欧州、日本、アジア			
		急性骨髄性白血病 (新規診断, 低強度の寛解導入化学療法との併用)	P-Ⅱ/Ⅲ/米国、欧州、日本、アジア			
		急性骨髄性白血病 (新規診断, 強力な寛解導入化学療法との併用)	P-Ⅰ/米国、日本			
IMAB362 zolbetuximab	抗Claudin 18.2モノクローナル抗体	胃腺がんおよび食道胃接合部腺がん	P-Ⅲ/米国、欧州、日本、アジア	注射	自社 (Ganymed)	
AGS-16C3F	ENPP3を標的とするADC	腎細胞がん	P-Ⅱ/米国、欧州	注射	自社 (ADC技術をSeattle Genetics から導入)	
ASG-22ME enfortumab vedotin	ネクチン4を標的とするADC	尿路上皮がん	P-Ⅱ/米国、欧州、日本、アジア P-Ⅰ/日本	注射	自社 [Seattle Geneticsと 共同開発]	
AGS67E		悪性リンパ腫	P-Ⅰ	注射	自社 (ADC技術をSeattle Genetics から導入)	

がん領域 (2/2)

*共同研究により創出された化合物を含む。

開発コード 一般名	薬効／作用機序	対象疾患	開発段階／地域	剤形	自社*／導入	備考
AGS62P1		急性骨髄性白血病	P- I	注射	自社 (EuCODEを用いた ADC技術を Ambrxから導入)	
ASP8374/PTZ-201		がん	P- I	注射	Potenza Therapeuticsとの オプション契約	

前回の決算発表時(2018年1月)からの変更点:

MDV3100 (エンザルタミド): 去勢抵抗性前立腺がんを適応症としたエンザルタミドの錠剤が、2018年2月に日本で承認を取得した。

ASP2215 (ギルテリチニブ): 再発又は難治性 *FLT3* 遺伝子変異陽性急性骨髄性白血病を適応症として、2018年3月に日本および米国で申請した。

泌尿器及び腎疾患領域

*共同研究により創出された化合物を含む。

開発コード 一般名	薬効／作用機序	対象疾患	開発段階／地域	剤形	自社*／導入	備考
YM905 ソリフェナシン	ムスカリンM ₃ 受容体拮抗剤	小児の神経因性膀胱	承認(2018年2月)／欧州 申請(2017年2月)／米国	経口	自社	効能追加 (小児)
EB178 ソリフェナシン／ ミラベグロン	ソリフェナシンとミラベグロンの併用療法	尿意切迫感及び頻尿の症状を伴う過活動膀胱	申請(2017年6月)／米国	経口	自社	
ASP1517 (FG-4592) ロキサデュスタット	HIF安定化剤	慢性腎臓病(保存期及び透析期)に伴う貧血	P-III／欧州 P-III／日本	経口	FibroGen	
YM178 ミラベグロン	β ₃ 受容体作動薬	小児の神経因性膀胱	P-III／欧州	経口	自社	効能追加 (小児)
YM311 (FG-2216)	HIF安定化剤	腎性貧血	P-II／欧州 P-I／日本	経口	FibroGen	
ASP8232	VAP-1阻害剤	糖尿病性腎疾患	P-II／欧州	経口	自社	
ASP6294	神経成長因子中和抗体	膀胱痛症候群／間質性膀胱炎	P-II／欧州	注射	自社	
ASP8302	ムスカリンM ₃ 受容体陽性アロステリック 修飾物質	低活動膀胱	P-II／欧州、日本	経口	自社	
ASP7713		低活動膀胱	P-I	経口	自社	
MA-0217		急性腎障害	P-I	注射	自社 (Mitobridge)	

前回の決算発表時(2018年1月)からの変更点:

YM905(ソリフェナシン):小児の神経因性膀胱を適応症として、2018年2月に欧州で承認を取得した。

免疫科学及び神経科学領域

*共同研究により創出された化合物を含む。

開発コード 一般名	薬効／作用機序	対象疾患	開発段階／地域	剤形	自社*／導入	備考
FK506 タクロリムス	免疫抑制剤	臓器移植における拒絶反応の抑制(小児用顆粒製剤)	申請(2017年7月)／米国	経口	自社	剤形追加
ASP015K ペフィシチニブ	JAK阻害剤	関節リウマチ	P-III／日本、アジア P-II／米国、欧州	経口	自社	
ASKP1240 bleelumab	抗CD40モノクローナル抗体	生体腎移植患者における再発性巣状糸球体硬化症	P-II／米国	注射	協和発酵キリン	
ASP8062	GABA _B 受容体陽性アロステリック 修飾物質	線維筋痛症	P-II／米国	経口	自社	
ASP0819	カルシウム活性化カリウムチャネル 開口薬	線維筋痛症	P-II／米国	経口	自社	
ASP4070 (JRC2-LAMP-vax)	スギ花粉DNAワクチン	スギ花粉症	P-II／日本	注射	Immunomic Therapeutics	
ASP5094	抗alpha-9インテグリン モノクローナル抗体	関節リウマチ	P-II／日本	注射	自社	
ASP4345	ドーパミンD ₁ 受容体陽性アロステリック 修飾物質	統合失調症に伴う認知機能障害	P-II／米国	経口	自社	
ASP0892		ピーナッツアレルギー	P-I	注射	Immunomic Therapeutics	
ASP1807 (CC8464)		神経障害性疼痛	P-I	経口	Chromocell	
ASP6981		統合失調症に伴う認知機能障害	P-I	経口	自社	

前回の決算発表時(2018年1月)からの変更点:

ASP1707: Phase 2 試験において主要評価項目を満たさなかったため、Phase 2 段階にあった関節リウマチを対象とした開発を中止した。

その他

*共同研究により創出された化合物を含む。

開発コード 一般名	薬効／作用機序	対象疾患	開発段階／地域	剤形	自社*／導入	備考
AMG 785 ロモソズマブ	抗スクレロシンモノクローナル抗体	骨折の危険性の高い骨粗鬆症	申請(2016年12月)／日本	注射	Amgen [アステラス・アム ジェンと共同開発]	
イブラグリフロジン／ シタグリプチン	イブラグリフロジンとシタグリプチンの 配合剤	2型糖尿病	承認(2018年3月)／日本	経口	自社 [MSD、寿製薬と 共同開発]	
ASP1941 イブラグリフロジン	SGLT2阻害剤	1型糖尿病	申請(2018年1月)／日本	経口	自社 [寿製薬と共同 開発]	効能追加
ASP0456 リナクロチド	グアニル酸シクラーゼC受容体作動薬	慢性便秘症	申請(2017年9月)／日本	経口	Ironwood	効能追加
フィダキソマイシン	大環状抗菌剤	感染性腸炎(適応菌種:クロストリジウム・ディフィシル)	申請(2017年7月)／日本	経口	Merck	効能追加 (小児)
		小児におけるクロストリジウム・ディフィシル感染症	P-III／欧州			
ESN364 fezolinetant	NK3受容体拮抗薬	更年期に伴う血管運動神経症状	P-II／米国	経口	自社 (Ogeda)	
CK-2127107 reldesemtiv	速筋トロポニン活性化剤	脊髄性筋萎縮症	P-II／米国	経口	Cytokinetics	
		慢性閉塞性肺疾患	P-II／米国			
		筋萎縮性側索硬化症	P-II／米国			
ASP7317	細胞医療(網膜色素上皮細胞)	萎縮型加齢黄斑変性、Stargardt病	P-II／米国	注射	自社 (Astellas Institute for Regenerative Medicine)	
MA-0211		デュシェンヌ型筋ジストロフィー	P-I	経口	自社 (Mitobridge)	

前回の決算発表時(2018年1月)からの変更点:

イブラグリフロジン／シタグリプチン: 2型糖尿病を適応症としたイブラグリフロジンとシタグリプチンの配合剤が、2018年3月に日本で承認を取得した。

ASP0113: Phase 3 試験において主要評価項目を満たさなかったため、Phase 3 段階にあった造血細胞移植時のサイトメガロウイルス感染抑制を対象とした開発を中止した。

ASP1707: 戦略上の優先度等の総合的な判断により、Phase 2 段階にあった子宮内膜症を対象とした開発を中止した。